



今月の予定

大斎開始:3月7日。平日の祈禱や先備聖体
礼儀に参加しましょう。

名古屋指揮当番

3日ピーメン松島、17日エレナ広石、24日交替

聖歌練習

名古屋:4月10日代式後、

・復活祭の特訓をします。復活祭は4月24日(23日11pm)
主日聖体礼儀後も可能な限り、練習します。

半田:4月20日13:00から(9:30から受難週祈禱あり)

・復活祭を練習します。

ズナメニイ研究会

4月6日1:30から。

グレゴリオチャントが西洋宗教音楽の原点であるように、ズナメニイはロシア聖歌の原点です。ズナメニイを知ることによってビザンティンとの連続性をとらえ、合唱音楽へと発展したロシア聖歌の底にある正教会聖歌の本質をさぐります。また日本語でズナメニイを歌ってみて、古聖歌の魅力を体感してみます。

<http://www.orthodox-jp.com/liturgy/Znameniy/chant.htm>

知って祈ろうー奉神礼・聖歌入門

1. アンティフォン

街の大聖堂の伝統 vs 修道院の伝統

正教会の奉神礼(礼拝)には、大きく分けて二つの伝統が混じり合っています。コンスタンティノープルのアギアソフィア大聖堂を中心とする「街の教会」の伝統と聖サワ修道院などの「修道院」の伝統の二つです。もともと別々に発展し、互いに影響し合い、やがて一つにまとまってゆきました。

『聖体礼儀』には「街の教会」の伝統の要素が多く、早課、晩課、時課などの聖務日課には「修道院」の伝統が多く残っています。

「聖体礼儀」は主イエスが最後の晩餐の日に命じたときから教会の中心をなす機密です。最初は誰かの家に集まって、使徒からきた手紙を読みイエスが行った様々なできごとを語り、パンとブドウ酒を分かち合う簡素な儀式でした。教会の集まりの中心として使徒たちから役割を受け渡されてきたのが主教です。(口語訳の聖書では監督と訳されています。)また信徒達が持ってきた献げもののパンとブドウ酒を整えたり、集まった金品を貧しい信徒に配分したりする実務を行ったのが輔祭(口語訳では執事)です。司祭は少し時代がくだってから、機密の執行人として主教から役割を委譲されたものです。街の教会の祈りは神品



修道院



職(聖職者)を中心として構成されました。

また大聖堂の祈禱にはビザンティンの皇帝や皇族も参列し、それなりの規模や格式が整えられ、当時宮廷で行われていた儀式も導入されました。十字行、アンティフォン、トロパリ、リティヤ、連禱などは街の教会で始まりました。神品が用いる『奉事経』(エウコロギオン)は、街の大聖堂で発達した祈禱書です。

それに対して、身も心も神に捧げた祈りの生活をおくるために身一つで荒野(砂漠)に出ていったのが修道士です。聖堂も祈禱書も持たない彼らが祈ったのは「聖詠」(詩編)です。彼らは150編の聖詠や旧約聖書の歌をすべて暗記し、夜も昼も繰り返し唱えました。

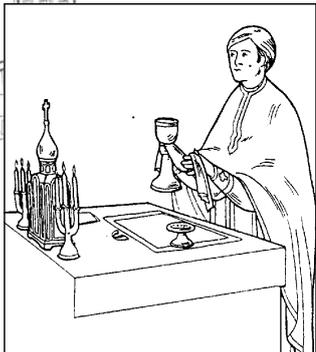
やがて共住しながら祈りの生活を行う修道院ができました。エルサレム郊外の聖サワ修道院は共住修道院の中心のひとつで、聖サワでの祈りの生活に合わせて聖詠がまとめられたのが『時課経』です。ティピコンは「奉事規則」と訳されますが、実際は斎のきまりなどを含む修道生活全体のルールです。

早課、晩課、時課などは『時課経』の枠組みに、『八調経』『三歌斎経』を挿入します。これらも修道院で作られたので、晩禱や大斎の祈りに修道院の色合いが強いのは当然といえます。

大まかにいって、日曜日や祭日、とくに復活祭の祈りには「街の教会」の伝統が多く含まれ、反対に晩禱や大斎の平日祈禱には修道院の要素が多くなっています。祈禱文の内容も自らの罪を懺悔し、神の憐れみを願う修道的な歌が多く含まれます。ですから大斎は街の教会にいながらにして、修道院の祈りの生活を味わうチャンスとなっています。



主教(監督)



司祭(長老)



輔祭(執事)

ガードナーの『ロシア正教会の聖歌』は世界中で広く読まれている正教会聖歌の入門書です。
ここでは現代日本の状況に合わせて適宜省略、解説を加えてご紹介しています。

正教会の礼拝の仕組み

ローマカトリック教会のミサ「通常文（年間通して変わらない部分）」「固本文（祭日や条件によって変わるもの）」の仕組みと同様に、正教会の礼拝も変化しない固定の枠組みがあって、そこに『祭日経』や『八調経』収録されている祭日替わり、週替わりの要素を組み込んでいきます。歌の種類は4つに分類することができます。

(1) 通常の歌：固定の枠組みを作る変化しない材料。
歌の内容（歌詞）は祭日、調、週によって変化しないが、歌い方や音楽要素は状況に応じて変わります。祭日には華やかに、平日には簡素に歌われます。主に時課経、奉事経に収録されています。

(2) 特定の課において、特定の曜日ごとに決められた材料、その週が調であっても曜日によって決まっています。（例：晩課のポロキメン。時課経187ページ）

(3) 特別の場合に限って歌われるもの。

週の曜日にも週の調にも関係なく、大祭だけに歌われる：ポリエレイなどです。

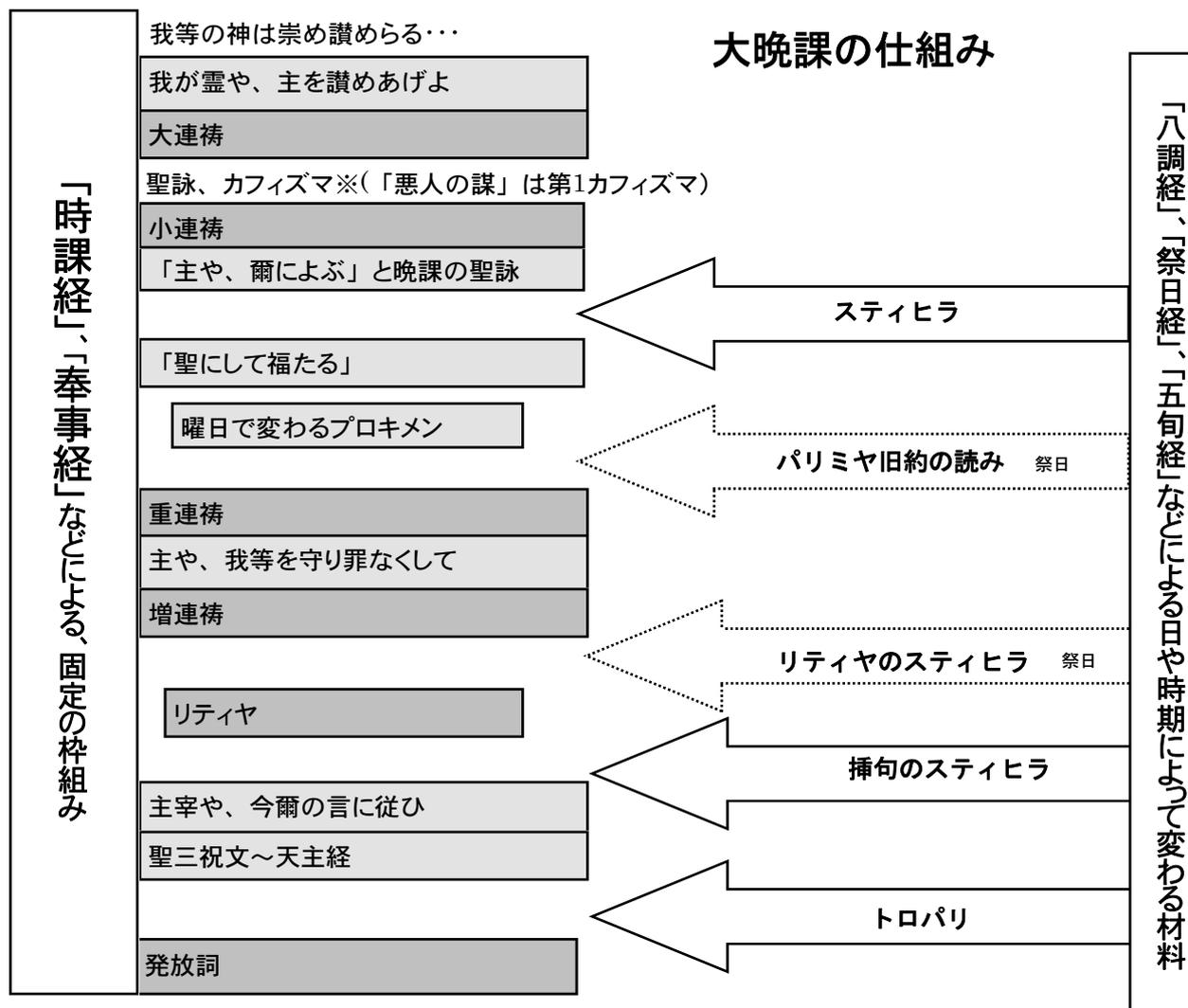
(4) 祭日、調などによって挿入される歌。

八調経、祭日経、三歌斎経、五旬経などに収録されている歌。

(1)の中には、歌詞は同じで週の調や祭日によって異なる調のメロディで歌われるものがあります。たとえば晩課の聖詠「主や爾によぶ」(141, 129,116聖詠)、早課の讃揚歌「凡そ呼吸ある者」(148,149,150聖詠)です。

まず主日と祭日の大晩課を例に挙げて、具体的に解説しましょう。

小晩課、平日晩課については次回お話しします。



図解資料は2002年東海道ブロック誦経者研修会で使用したものです。

※カフィズマとは、『聖詠経』一五〇編の聖詠を二〇グループに分けたもの。第一カフィズマは第一から第八聖詠。第一八カフィズマは大一一九から一三三聖詠。各カフィズマはさらに三段(スタチア)に区分され、光栄讃詞「光栄は：今も、アリルイヤ…」を挿入し『坐誦讃詞』(セダレン)を誦する。カフィズマの原義は「すわる」。

ホームページのご案内

○「なごや聖歌だより」のホームページ

<http://www.orthodox-jp.com/music>

なごや聖歌だよりのホームページの表紙で名古屋教会の聖歌が聞けます。「聖歌だより」のバックナンバーもダウンロードできます。

○ 東方正教会の聖歌 <http://www.orthodox-jp.com/maria>
詳しく学びたい方のため正教会聖歌の特徴、聖歌の神学、歴史、など海外の資料も多数翻訳して掲載しています。

○ 正教会奉神礼研究 *Liturgia*
<http://www.orthodox-jp.com/liturgia> 奉神礼や聖歌の実践資料